

**令和7年度 第1回 志布志市まち・ひと・しごと創生推進協議会
質問に対する回答**

■ 協議 (□は資料名)

- (1) 地方創生の動きについて
 (1) 令和6年度事業の効果検証
 (2) 令和7年度事業の実施計画

別紙1	
別紙1	別紙2
別紙3	

※参考資料1～5、別冊

No	該当資料	質問内容	回答
1	資料名 (別紙2) (15) ページ	移住定住拡充にあたり、支援給付金メニューがあれば、金額・条件等教えて下さい。	<p>若者・子育て世帯移住支援事業補助金 <要件> ①令和7年1月1日以降に転入した39歳以下の世帯であって、5年以上居住する意思のある方 ②本市へ転勤、出向等で移住した者ではなく、就業要件を満たしている方 <補助額> ①基本額 20万円 ②加算額 18歳未満の子どもを帯同して移住した場合 子一人につき5万円加算</p> <p>定住支援事業補助金 <要件> 令和7年1月1日から12月31日までに、自らが居住するための住宅を取得し、自治会に加入し、5年以上居住する意思のある方 <補助額> 基本額 30万円 若者加算 世帯全員が39歳以下である場合 50万円 子ども加算 18歳未満の子ども1人につき 20万円加算</p> <p>その他東京圏移住支援事業補助金、結婚新生活支援事業補助金、奨学金返還支援事業補助金等があります。</p>
2	資料名 (別紙2) (17) ページ	ふるさと納税推薦事業の「決算額」は寄付総額と理解して良いですか？	寄付総額ではなく、総事業総額になります。令和6年度寄付総額は、5,190,500千円になります。
3	資料名 (別紙2) (15) ページ	「政策実施に伴う移住者数」が令和4年度から着実に増えているが、どの事業が特に効果的だったと考えているか。また、移住者からはどのような点が移住の決め手になったと聞いているか。	<p>令和6年度から事業を見直し、若者・子育て世帯移住支援事業補助金及び定住支援事業補助金を創設したことが、効果的だったと考えております。</p> <p>移住の理由及び決め手としては、夫又は妻の出身地であることが理由として一番多いところです。その他、本市が就業先であること、温暖な気候で子育てしたいためといった理由が決め手として多いところです。</p>
4	資料名 (別紙2) (13) ページ	基本目標2「ひとや企業とのつながりを築く」の令和6年度の数値では、「政策実施に伴う移住者数」が184と大幅に増加している。この移住者数の年齢層や地域、移住理由などの内訳はどのようになっているか、定住見込みなどは判明しているのか。また、それは令和7年度以降の政策にどのように活かされる予定か。	<p>令和6年度から事業を見直し、若者・子育て世帯移住支援事業補助金及び定住支援事業補助金を創設したことが、効果的だったと考えています。</p> <p>移住の理由及び決め手としては、夫又は妻の出身地であることが理由として一番多いところです。その他、本市が就業先であること、温暖な気候で子育てしたいためといった理由が決め手として多いところです。</p> <p>移住、定住者数の年齢層としては、子ども連れが多いため、人数としては20歳未満の子ども的人数が一番多く、その後20代、30代が多いところです。</p> <p>移住、定住元の地域としては、県内からが一番多く、その他宮崎県、福岡県、東京都からとなっています。</p> <p>今年度以降の定住見込みなどは判明していませんが、東京大阪での移住フェアへの出展や、移住・交流支援センター「Esplanade」で随時移住相談は受けているところであり、</p> <p>移住定住関係の補助事業については、対象者を拡充しながら継続しつつ、次年度以降も移住政策に効果的な補助事業を実施できるよう、関係企業等の意見を聞きながら見直しを行っていきたくと考えております。</p>

令和7年度 第1回 志布志市まち・ひと・しごと創生推進協議会 質問に対する回答

■ 協議 (□は資料名)

- (1) 地方創生の動きについて
- (1) 令和6年度事業の効果検証
- (2) 令和7年度事業の実施計画

別紙1		
別紙1	別紙2	
別紙3		

※参考資料1～5、別冊

No	該当資料	質問内容	回答
5	資料名 (別紙2) (23) ページ	<p>小児科開設支援事業は、令和6年度内には達成できなかったようですが、どの程度まで交渉が進んでいるのでしょうか。少子化対策の上でも子供を安心して育てる環境作りが一番かと思います。進捗状況を教えてください。</p>	<p>この小児科開設支援事業は手続を2段階に分けており、外部の専門家を含む審査会で補助事業者として承認を受け、その後、市との事前協議を経て補助金申請をいただくこととなっています。</p> <p>進捗につきましては、昨年8月に1者の医療法人より小児科開設支援事業承認申請が提出され、審査会を開催し、令和6年9月12日に補助対象者として決定しました。</p> <p>その後、小児科開設に向けて医療法人と市との間で協議しながら準備を進めてまいりまして、令和7年5月1日には補助金の申請が提出され、交付を決定しています。</p> <p>小児科の設置場所については、志布志市役所前の旧ひばりビル駐車場内であり、現在、令和8年1月の開院を目指して、建物の建築が進められているところです。</p> <p>今後は、進捗等について、市報や市のホームページ等で周知してまいります。</p>
6	資料名 (別紙2) (25) ページ	<p>こころざしアップ教育推進プロジェクトについて、本校教職員も講師として数名ですが協力させてもらっています。</p> <p>しかし、近年の教職員の働き方改革を考えると、現職の教員ではなかなか厳しい状況があります。部活動や校内における補習、保護者対応、校務等、いくらでも業務量が増えてきています。</p> <p>この講師について、引退された教員の方々にお問い合わせ出来ないでしょうか。</p>	<p>近年の教職員の働き方改革を踏まえると、講師としての派遣が厳しい状況にあることを認識しています。次のような視点で、高校の教員に協力していただくよさがあると考えております。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①より専門的な知識や経験が豊富なため、効率的で質の高い指導が期待できる ②高校進学へ向けて実践的なアドバイスを受けることで、高校進学に向けた具体的な道筋をイメージしやすくなり、学習意欲の向上が期待できる ③交流が図られることで、高校進学への不安が軽減され、希望をもって学習に取り組むことが期待できる ④将来の進路とどのように関連しているのか具体的に伝えることができ、早い段階から自分の将来について考え、進路選択への意識をもつよい機会になることが期待できる <p>また、引退された教員の方々にも講師として参加していただくよさもあります。今後は、指導可能な人材を把握し、その方々のニーズや意向を踏まえ、効果的に活動していただける仕組みづくりを行っていく予定です。</p>
7	資料名 (別紙2) (36) ページ	<p>ごみステーションが新設され、とても便利になってきたと良い評判も聞こえてくるようになりました。</p> <p>一方で、車を持たない高齢者や休日が変則的な方々もいらっしゃいます。住民が住みやすい街づくりを目指すために、分別の簡素化や高温の焼却炉の新設等、根本的な改革が必要ではないでしょうか。</p>	<p>本市の環境への取組は、今ある資源を長く使うという考えのもと、焼却施設は持たず、「美しい地球を子どもたちに」「分ければ資源、混ぜればごみ」を合言葉として、市民の皆さまに御理解と御協力をいただきながら26品目のごみ分別収集と再資源化を進めています。</p> <p>令和6年4月からは、さらに再資源化を進め、埋立ごみの減量による最終処分場の延命化を図るため、ユニ・チャーム(株)等と連携し、一般ごみとして埋立処分していた使用済み紙おむつを資源ごみとして回収し、紙おむつから紙おむつへという世界初の水平リサイクルの実現に取り組んでいます。</p> <p>本年4月からは、アピア前市営駐車場で行っていた月2回の資源ごみ集合収集を、常設の循環センターへ移転し、週2回の収集に拡充しております。</p> <p>分別の負担軽減のための新たな技術の検討を進めながら、引き続き市民がごみを出しやすい環境の整備を促進してまいります。</p>